

令和6年度 東京都立荒川工科高等学校 定時制課程 学校経営報告

東京都立荒川工科高等学校長

坂 田 安 永

1 今年度の取組目標と方策

(1) 教育活動の目標と方策に対する成果と課題

ア 学校経営・組織体制の改善・充実

【成果】

- (ア) いじめ・体罰根絶に向け、校内研修を実施した。
- (イ) 保護者や地域住民との信頼される学校づくりを推進した。
- (ウ) 都立学校情報セキュリティ対策基準等を遵守し、個人情報の管理を徹底した。
- (エ) TokYo-P-TECH、海外学校間交流推進校事業など、全日制課程との協働体制を基盤に、教育活動の一層の充実を図った。
- (オ) 都立学校開放事業や工作教室を実施し、荒川区、地域とのパートナーシップを築いた。
- (カ) 学校運営連絡協議会の意見や評価結果を参考に開かれた学校づくりの充実を図った。
- (キ) 産業医の助言を受け、教員の心身の健康保持、職務に対する誇りとやりがいを持たせられる職場環境の改善を図った。
- (ク) 特別な支援を必要とする生徒へのきめ細かな対応するため、外部との連携を強化し指導上の課題を全教職員で共有と解決に取り組んだ。

【課題】

- (ア) 入選倍率を向上させるため、新たな広報戦略を見出す。
- (イ) グランドデザインを生徒の実態に即して、継続して見直している。
- (ウ) 計画的な年休取得を推進し、長時間労働の教職員をさらに減少させる。
- (エ) 教員の専門性及び授業力の向上を更に図る必要がある。

イ 学習指導の充実・工夫

【成果】

- (ア) 課題研究など生徒自身の発想を生かし、主体的・対話的に深い学びを実現化させた。
- (イ) 図書館利用を進め、「読解力」を育み、教科書をしっかりと読ませる授業を実践した。
- (ウ) 「分かる授業」の実現に向け、放課後や長期休業期間等における補講・補習を計画的に実施し、数学の学習では、年間を通し学力不振者は0名と基礎力の向上に努めさせた。
- (エ) 教科「人間と社会」では、仲間や地域との交流・協働を通して、外部団体と連携し電子工作遊具の開発などを通し、主体的に考え、行動する力を身に付けた。
- (オ) 海外学校間交流推進事業で、全校生徒へJICAと協力してベトナム学習会を実施、希望者でベトナムスタディツアーを実施した。これにより、国際感覚を持つ人材育成に努めた。

【課題】

- (ア) 学習面の初歩的な「つまずき」を早期に発見に継続して努めさせた。
- (イ) 次年度に実施されるTIPS-Type4への取り組みと全科目での実施が必要である。

(ウ) 外部機関と連携し、主権者教育、消費者教育を充実させる。

ウ 進路指導の充実・工夫

【成果】

(ア) 組織的・計画的なキャリア教育を実施した。

(イ) ハローワーク等と連携し、教職員向け在京外国籍生徒の進路活動にかかわる研修を実施させ、取り組みを強化させ進路実現に結びつけた。

【課題】

(ア) インターンシップに令和５年度１名から５名参加が増加した。更に参加人数を増やしていく。

(エ) 免許・資格の取得、各種検定の合格を目指す指導の充実を図った。合格率をさらに上げていく。

エ 生活指導の充実・工夫

【成果】

(ア) 生徒の規範意識向上に向けた指導の徹底を図った。特別指導案件はゼロ件であった

(イ) セーフティ教室等で知識を深め、SNSによるトラブルを未然に防ぐことができた。

(ウ) 警察署や外部団体との連携を図り、事件や事故に巻き込まれないための正しい倫理観を身に付けさせた。

【課題】

(ア) 生徒会によるポスター制作など継続し、生徒自らの意識を高め、自転車通学時のヘルメット着用率を更に上げる。

(イ) 遅刻・欠席のない生活習慣を更に身につけさせる。

オ 特別活動・部活動の充実・工夫

【成果】

(ア) 教科「人間と社会」において、主体的なボランティア活動に参加し、自己肯定感を高めさせた。

(イ) 荒川区と連携した工作教室など生徒が主体的に参加し、地域と連携した事業を実施できた。積極的に地域に貢献を行う。

(ウ) 柔道部の全国大会参加など、部活動を活性しさらに成績を伸ばす。

【課題】

(ア) 特別活動や部活動の加入率８０％達成できなかった（部活動加入率７５％）今後、更に積極的参加を促す。

カ 健康づくりの啓発

【成果】

(ア) 学校保健計画に基づき、健康づくりに関する取組を組織的・計画的に進めた。

(イ) 食物アレルギーについての生徒情報の共有と緊急時体制を構築した。

(ウ) 保護者と連携し、生徒の健全育成を図った。

(エ) スクールカウンセラーを中心に関係機関と連携を図り、教育相談体制を強化した。

【課題】

(ア) 体育科と連携し、生徒の体力向上に努める。

(イ) 健康の保持増進を目的とした食育を推進し、給食の喫食率を向上させる。

キ 生徒募集活動・学校広報活動の充実・工夫

【成果】

- (ア) 学校案内を一新し、受検生徒とその保護者へ配布した。
- (イ) 学校行事や部活動の様子を学校ホームページで昨年度を上回る回数で情報発信した。
- (ウ) 中学校教員向け説明会、12月に体験入学を実施し、学校PRの一層の充実を図った。
- (エ) 地域連携事業による小学生対象の工作教室を実施した。
- (オ) 夜間中学校訪問や地域と連携した募集活動を実施した。

【課題】

- (ア) 合同説明会、各説明会での定時制の独自性を持った広報活動の工夫。
- (イ) 関係機関、連携機関を拡大する。

(2) 重点目標と方策

ア 学校課題解決に向けたチーム力の強化

重点目標	方策及び具体的な取組	数値目標	達成：○ 未達成：× 結果(報告数値)
課題解決に向けたチーム力の向上とチーム効力感の情勢	服務事故の防止や教育課題等を目的とした校内研修	年5回以上	○: 5回実施
	個人情報の管理徹底を目的とした校内研修	年2回以上	○: 3回実施
	全日制課程との協働体制を推進する各種連絡会の実施	随時	○: Tokyo P-TECH 事業、海外学校間交流推進校事業等
図書館環境の維持管理	図書館の利用促進を図る読書週間の設定	不読率50%以下	○: 不読率45%以下
ライフ・ワーク・バランスの推進と業務の効率化	各分掌主任の連携による会議時間の短縮	月在校60時間超えの教員ゼロ	×: 月在校60時間超えの教員3名
	閉庁日の設定や計画的な年休取得		○: 年休取得

イ 学習課題の把握と授業力の向上

重点目標	方策及び具体的な取組	数値目標	達成：○ 未達成：× 結果(報告数値)
生徒の基礎学力を把握と中途退学者の未然防止	個に応じてきめ細かな指導を実施する。	学力不振による中途退学者 0	○:学力不振による中途退学ゼロ
	1・2学年の数学・理科、1学年の電気回路は少人数指導として学力の定着を図る。		○:数学・理科、1学年の電気回路の未修者 0 名
	放課後学習・長期休業中の補習・補講を計画的に実施する。	原級留置者 0	○:原級留置者 0 名
	始業前HRの実施による出席率の向上	出席率 90%以上	○:1日遅刻生徒数平均 2 名
授業改善の組織体制を構築	ICT機器等を活用した授業の実施	各教科で実施	○:各教科で実施
	教師道場や研究員を活用した研究授業や校内研修の実施	年 2 回以上	○:3 回実施
学校図書館の利用や読書活動を活性化	教科横断的に各教科の授業で図書館を活用し、本に親しむ習慣を身に付ける。	不読率を 50%以下	○:不読率 40%以下
より良い生き方を主体的に選択する行動力の育成	地域や関係機関と連携し、教科「人間と社会」の指導内容・方法を工夫改善	成果発表会の実施	○:3 年生 4 テーマ 発表
	外部機関と連携した主権者教育の実施	年 1 回以上	○:関係機関との連携授業 2 回実施

ウ キャリア教育の充実と免許・資格の取得・検定合格

重点目標	方策及び具体的な取組	数値目標	達成：○ 未達成：× 結果(報告数値)
生徒一人一人の適性に 応じた進路希望の実現	生徒一人一人の進路希望を把握する。	進路決定率 100%	○:進路決定率 100%
	○個々の生徒への適切な就労支援	就職決定率 100%	○:就職決定率 100%
	○社会人として求められるマナーやコミュニケーション能力を高める。		○:ハローワーク等、外部人材を活用
	インターンシップへの積極的な参加	1名以上参加	○:5名参加
	ハローワークと連携した進路講話の実施	年2回以上	○:5回実施
国家資格の合格	電気工事士（第一種、第二種）	3名以上	○:4名
	特殊無線技士	3名以上	×:0名
	工事担任者（第二級デジタル通信、第二級アナログ通信等）	3名以上	×:0名
	危険物取扱者（丙種、乙種）	2名以上	○:2名
各種検定	計算技術検定・情報技術検定	10名以上	○:14名
各種制度の認定	ジュニアマイスター顕彰制度	1名以上	×:0名

エ 規範意識の向上と良好な人間関係構築

重点目標	方策及び具体的な取組	数値目標	達成：○ 未達成：× 結果(報告数値)
生活指導の充実	いじめ・生命の尊重を目的とした全校集会	年3回以上	○：3回実施
	SNS使用についての研修会	年3回以上	○：3回実施
基本的生活習慣の確立	登校時の校門指導(皆勤生徒の増加)	各クラス3人以上	○：皆勤3名
	粘り強い遅刻指導	年間遅刻延べ回数750回以下	○：年276回
特別な支援を必要とする生徒の共通理解	スクールカウンセラーと連携した校内研修	年2回以上	○：年2回実施
	グループエンカウターの実施	年2回以上	○：年2回実施
学校教育相談体制の構築	児童相談所、子供家庭総合センター等の外部機関や家庭と連携し、生活課題のある生徒の問題行動について情報共有を図る。	月1回以上	×：月1回未満
安全教育の推進と中途退学者の未然防止	外部関係機関と連携し、セーフティ教室、薬物乱用防止教室、交通安全教室を行い、非行防止や犯罪被害の防止に取り組む。	中途退学者0	○：中途退学者0

オ 生涯にわたる心身の健康の保持増進

重点目標	方策及び具体的な取組	数値目標	達成：○ 未達成：× 結果(報告数値)
学校保健計画に基づき、生徒の心身の関わる健康づくりの推進	薬物乱用防止教室	年1回以上	○:年1回実施
	飲酒・喫煙防止教室	年1回以上	○:年1回実施
	感染症等罹患防止の注意喚起と情報発信	時季に応じて実施	○:応じて実施
	食物アレルギーに関する校内研修を実施し、緊急時の組織体制の確立	年間2回以上	○:年2回以上
	「保健だより」の定期的な発行	年6回以上	○:年6回以上

カ 特別活動・部活動の活性化

重点目標	方策及び具体的な取組	数値目標	達成：○ 未達成：× 結果(報告数値)
学校行事の充実	内容を精選し、計画的に実施する。	参加率90%以上	○:参加率90%以上
オリンピック・パラリンピック教育の推進	各ボランティア活動へ積極的に参加させ、自発的な貢献力を育成する。	年3回以上	○:年3回以上
障がい者理解	障がい者スポーツ選手の招聘	年1回以上	×:0回
部活動の活性化	各種競技大会・コンテスト等への積極的な参加を促し、入賞体験等を通じて自己肯定感や達成感を味あわせる。	各部活動年2回以上	×:特定の部活動のみ
	部活動紹介や全国大会壮行会などを実施し、帰属意識を高める。	加入率75%以上	○:加入率75%以上
	生徒対象の熱中症防止研修等を実施する。	重大事故ゼロ	○:重大事故ゼロ

キ 専門高校の魅力を発信する広報活動と生徒募集対策

重点目標	方策及び具体的な取組	数値目標	達成：○ 未達成：× 結果(報告数値)
学校の魅力を効果的に発信する 広報活動の推進 と生徒募集対策 の充実	全教員体制で実施する中学校訪問	50校以上	×：20校
	ホームページからの情報発信	週1回以上	○：週1回以上
	各科を分かりやすく解説した学校案内作成	7月までに完成	○：7月までに完成
	学校説明会	年5回以上	×：年2回実施
	授業公開		×：年2回実施
	体験入学		×：年2回実施
	夏休み親子教室	年1回以上	○：年1回以上
	中学校の教職員や塾教員を対象にした学校説明会・見学会	年1回以上	○年1回：実施
	「荒工通信」を発行し、保護者地域へ学校魅力を発信する。	年6回以上	×：年3回以上